

## 宍道湖の汚染

松江市立湖東<sup>ことう</sup>中学校一年

おがた ま お  
尾形 真桜

私の住んでいる松江市は宍道湖と数多くの川に囲まれ、「水の都」という名前の通り水にあふれています。

その中でも、宍道湖にはハゼやスズキ、シジミなどの生き物が数多く生息し、冬になるとコハクチョウや天然記念物のマガンなどの鳥が越冬のために飛来します。その貴重さから、二〇〇五年に中海とともにラムサール条約に登録されています。

しかし、数十年前から湖の水質汚染が進み、アオコが毎年のように発生しています。アオコとは、湖が緑色ににごった状態のことで、湖の塩分濃度が下がったときにプランクトンが大量に発生することで起こります。そのせいでシジミなどの漁獲量が少なくなり、水質の悪化も進んでいます。

では、何故宍道湖にアオコが発生するようになったのでしょうか。それには、昭和三十年代の高度経済成長期が関わっています。

昭和三十年代、全国の工場や家庭から排水が川や湖に直接流され、川や湖はどんどん汚染されていきました。この工業排水や家庭排水からプランクトンが大量に発生し、宍道湖にアオコが発生するようになったのです。

けれど、今は家庭排水は処理場できれいにされ、排水を直接川に流すことが少なくなり、水質の悪化は改善されつつあります。

しかし、家庭から洗剤や油などを直接流し続けると処理場で処理しきれず、宍道湖の汚染がさらに進んでしまいます。そうならないためにも、私たちができることはたくさんあります。

例えば、洗う前に食器を布や紙などで拭くだけで、流れる洗剤や油の量を少なくすることができます。また、排水溝に目の細かいネットを張ることで、調理くずが流れるのを防ぐことができます。一人ひとりの行動は小さいですが、何千人、何万人もの人々がやれば、すごく大きな力になります。

今、宍道湖は徐々に元の姿を取り戻しつつありますが、アオコが発生しないきれいな湖になるには、まだ当分かかると思います。私は一日でも早く、宍道湖を渡り鳥や魚など、全ての生き物が安心してすむことのできるような湖にしたいと思います。